映画「みんなのデフリンピック」とは？

本作品は、きこえない・きこえにくい人のオリンピックと言われる“デフリンピック”が2025年に日本で初めて開催されるのを機に、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が製作しました。映画を通じて、デフリンピックという夢にチャレンジする、きこえない高校生の姿を発信し、一人でも多くの市民の皆様に、デフスポーツの普及やデフリンピックの周知を図り、きこえない・きこえにくい子どもたちのデフアスリートへの夢や希望を生み出す機会を作っていきます。

【作品紹介】

クラスで楽しそうに同級生とのおしゃべりに興じる一人の女の子。彼女は、どこにでもいそうな普通の高校生。でもよく見ると、彼女も同級生たちもみんな、しきりに手を動かしている。そう、ここはきこえない生徒たちが通う「ろう学校」。

放課後も週末も、プールへ通い、水泳の練習に熱心に取り組む彼女には、デフリンピックという夢がある。パラリンピックじゃなくて、デフリンピック？きこえなくても体は自由に動くなら、オリンピックを目指したら？

デフアスリートたちには、「きこえない」だけでなく、競技をする上でいくつものバリアがある。彼らには、デフリンピックで競い合うことにこそ意味があるのだ。

「感謝の気持ちを胸に、デフリンピックを目指したい」という高校生の声。きこえない人ときこえる人が共に暮らせる共生社会とは？　2025年東京デフリンピックが目指すものとは。

第14回 手話まつり

１１月５日（日）第１４回手話まつりは「いきいきプラザ島根」（松江市東津田町1741-3）に於いて開催する。映画「みんなのデフリンピック」10時～15時（時間２５分で６回）上映予定。映画を観て応援しませんか？

（文：ワークセンターフロンティー利用者　島根県ろうあ連盟事務局長　大瀧 浩司）

よろしくお願いします！ ～新人職員の紹介～

７月から相談支援事業所ハートピア出雲で相談支援専門員として働いています、筒井典子です。安全運転と健康管理に心掛けて楽しく仕事したいと思います。今後ともよろしくお願いします。

編集後記

◆それにしても今年の夏は暑かったですねぇ。昼間はもちろんのこと夜中もエアコンつけっぱなしの日が何日続いたことか・・・。松江市の８月のある日、最低気温が３０度を下回らないことがありビックリしました。２０２３年７月の世界の平均気温が観測史上最高となる見通しから生まれた言葉が「地球沸騰化」で、地球温暖化よりもレベルの高いものとされています。マジで未来のために今、自分のできることから少しずつでもエコ活をできればいいなと思います。　【編集長　米山】

社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲　情報誌「トピア」

2023 10月

Topia

第66号

＜発行所＞
相談支援事業所
ハートピア出雲
〒693-0014
出雲市武志町693-6
Tel：0853-23-2720
Fax：0853-23-2721
E-mail：shien@heartpia.or.jp
ホームページ
http://www.heartpia.or.jp

小さないのちのための「リトルベビーハンドブック」

リトルベビーハンドブックとは、低体重で生まれた小さな赤ちゃんとその家族のための母子手帳のサブブックの事を言います。一般的に、母子手帳の発育曲線は体重1kgからで、身長は40cmから始まっています。体重1kg未満、身長40cm未満の赤ちゃんはグラフに書き込むことが出来ず、家族にとってつらく悲しいものになります。また、月齢ごとに記入していく標準的な成長や発達を確認する質問の回答も「はい」と記すことが出来ず、母子手帳に記録をする事さえも苦痛になってしまうご家族もいらっしゃると思います。

リトルベビーハンドブックは母子手帳だけでは補えない部分を補い、子どもの成長を喜び、家族の心を支えるために作られたものです。そのため、リトルベビーハンドブックの成長曲線は体重は0kg、身長は0cmから始まり、成長や発育も月齢単位で見るのではなく、個人差を考慮した工夫がされています。また、家族の不安な気持ちや孤独な気持ちが和らぎ、子育ての支えとなるよう先輩パパ・ママの他、医師・看護師・自治体の保健師など支援者のメッセージが載せられています。リトルベビーハンドブックを通してご家族がお子さんの成長に喜びを感じ、そして「一人で頑張らなくてもいい」と思われると良いなと感じています。

●鳥取県のハンドブック

低体重で生まれたお子さんは医療・福祉・行政など様々な機関と連携しながら支援していく必要があります。私自身も相談支援専門員として関わらせていただくこともあり、今後もご家族が孤独を感じる事無く安心して過ごしていただけるような関わりや連携をしていければと思います。

※今年９月時点でリトルベビーハンドブックは39都道府県が導入しており、島根県も本年度中に完成を目指しているそうです。（2023年９月16日山陰中央新報より）島根県でも多くの方に活用されるようになるといいですね。

（文：相談支援専門員　川上 ゆかり）

もくじ

●リトルベビーハンドブック ・・・・・・・・・・・・・・・・１ｐ
●言語聴覚士からのミニクイズ&交流会の報告・・・２ｐ～３ｐ
●映画「みんなのデフリンピック」＆新人紹介 ・・・・・・４ｐ

言語聴覚士からの「フムフム、なるほど！」～第７回～

言語聴覚士の安立です。ことば・コミュニケーションについての疑問を解き明かすプログラムの第７回をお送りします。第５回では読み書きの発達の中でも「読み」の獲得に必要なことを、第６回では、日本語に使用する仮名文字と漢字の特徴をテーマにしました。今回は「書きことば」について考えてみましょう。

話しことば（口語）には、聞いて理解することと、相手に向かって話すことがあります。書きことば（文語）にも、文字を読んで理解することと、書くことの両方があります。

そして、「書き」も「読み」と同じように、日常生活の中で文字に興味を持つことから発達していきます。

Question １：しりとり遊びは「書き」の学びにも重要である。
Question ２：🦡「たむき」、🌳「さ」のような書き誤り方は同じである。
Question ３：＋ は２画である。
Question ４：「どうしたの」と書いてあれば、疑問文だとわかる。
Question ５：「ちゃんと」は正しい書きことばである。

Q1＝○

ことばは、たくさんの音からできていましたね。しりとりは、ことばの終わりの音から始まることばを探して、次につなげていく遊びです。ことばの一つひとつの音を認識することができなければ、しりとり遊びはできません。しりとり遊びをするうちに、一つの音と一つの文字が一致することに気づき、文字への興味が湧いてきます。

「書き」には「読み」と同じように音と文字を一致させることに加えて、目で見た文字の形を一画一画、バラバラに分けて対応させながら作りあげていくことが必要です。

Q2＝×

「た㋲き」を「た㋮き」と書いた場合は、㋲を㋮と勘違いした音の誤りですが、「㋓」を「㋔」と書いた場合は、横線が１本欠けてしまった文字の形の誤りです。

このように、誤り方にもいろいろあります。

Q3＝○

赤の縦線と黒の横線が交わっている２画です。前にある線と後ろにある線が、縦横に交わっていることがわかるようになると２画と認識できます。交わり線がわからなければ、赤の縦線、黒の横線、青の縦線、緑の横線という４つの線からできていると考えてしまいます。仮名文字や漢字には縦や横、斜め、はねる、点などいろいろな線があります。それらの線を左から右へ、上から下へと決められた方向に順番どおりに書くと、文字ができあがります。

書き順は、姿勢や鉛筆の持ち方とともに、「書き」に大変重要ですので、気をつけましょう。

３ページにつづく

Q4＝×

どうしたの？

どうしたの！

「どうしたの」は、質問している場面と叱っている場面のどちらにも使いますね。話しことばは、ことばを発すると同時に、表情や言い方で感情を伝えることができます。

しかし、書きことばでは伝える方法が文字に限られています。前後の状況説明が書かれていない「どうしたの」のみでは質問しているのか叱っているのか、よくわかりませんね。そのため、質問している場合には「？」を、叱っている場合には「！」などの文字記号を補助的に使って、伝わりやすくする必要があります。

Q5＝×

正しい書きことばは「きちんと」です。

書きことばは、文法規則に沿った正確な文を書いて、読み手に内容を的確に伝えることを目的としています。そのため、書きことばには大まかなルールがあります。「ら」抜きことばや「い」抜きことばなども使いません。「ちゃんと」という副詞は話しことばで使われるくだけた言い方です。

いかがでしたか？　日常生活の中で、さりげなく文字を目にする環境、ことば遊びなどが豊かな書きことばを育みます。文字を書くことができるようになると、文字がコミュニケーションの手段になります。

ことばは刻々と変化していますので、この機会に日本語を見つめ直してみませんか？

地域のみなさんと交流しました

９月11日に川跡コミュニティセンターで、ハートピア出雲デイセンターの利用者さんが、川跡ふれあい交流部のみなさん、地域のみなさんと４年ぶりの交流会を開催しました。

●４年ぶりの交流会に楽しさひとしお

当日は造花のフラワーアレンジメントを一緒に作りました。

竹の器にオアシスを入れてそこにそれぞれ自由にお花を生けたり、時にボランティアの方に「この花はもう少し短くしたらバランスが良くなるよ」などアドバイスをもらいながら楽しく作ることが出来ました。

利用者からは「竹の器が素敵だった」「久しぶりに交流会が出来てボランティアの方とたくさん話が出来た」「これからは毎年出来たらいいな」など素敵な感想が聞けました。

交流会を通じてたくさんの笑顔を見ることが出来ました。改めて地域との関りの大切さを感じることができました。これからも続けていきたいものです。

（文：ハートピア出雲デイセンター　サービス管理責任者　石橋 貴宏）

※写真はご本人の了承を得て掲載させていただいております。